

産業建設委員会視察報告書



(東京ビッグサイト入口にて)

平成 29 年 6 月

産業建設委員会視察報告書

目 次

I 視察報告概要	1
1 視察日程	1
2 視察先	1
3 視察の目的	1
4 視察参加者	1
5 視察研修の様子	1
II 視察内容	2
1 2017NEW環境展の概要	2
2 視察研修の様子	3
III 委員の感想等	4
1 視察を終えて	4
2 その他	4

I 視察報告概要

1 視察日程

平成29年5月25日(木)

2 視察先

東京都江東区有明3丁目10-1 東京ビッグサイト有明



(東京ビッグサイト前)

3 視察の目的

環境対策の各種課題に対応する様々な環境技術・サービスの先進事例を調査し、市民生活の安定を図ることを目的とするものである。

4 視察参加者

委員長	小座野 定 信
副委員長	佐 藤 文 雄
委員	矢 口 龍 人
委員	加 固 豊 治
委員	来 栖 丈 治
同行	田 崎 清 (環境経済部長)
同行	田 崎 守 一 (環境保全課長)
随行	青 山 哲 士 (議会事務局主任)



(2017NEW 環境展入口)

5 視察研修の様子



(バイオマス・有機性廃棄物処理エリアにて)

視察研修は、環境対策の各種課題に対応する様々な環境技術・サービスの先進事例を調査するため、東京ビッグサイト(東京都江東区)にて開催された日報ビジネス株式会社(東京事業所:東京都千代田区、大阪事業所:大阪府中央区)が主催する「2017NEW 環境展」を視察した。

II 視察内容

1 2017NEW環境展の概要

(1) 名称 2017NEW環境展 (N-EXPO2017TOKYO)

(2) テーマ 環境ビジネスの展開

(3) 目的 企業の社会的責任が問われる時代に入り、環境との共生を無視しては企業の存続すら危ぶまれる時代になりました。また持続可能な循環型社会の構築にむけ環境汚染問題や地球温暖化問題の解決は避けて通れない課題です。とりわけ資源有効利用や多様な新エネルギーの活用



(再資源化・廃棄物処理解体コーナーの様子)

は、環境対策にとり最重要の取り組みです。そうした中、各種課題に対応する様々な環境技術・サービスを一堂に展示情報発信する事により環境保全への啓発を行い、国民生活の安定と環境関連産業の発展を目的とします。

(4) 主催 日報ビジネス株式会社

(週刊循環経済新聞／月刊廃棄物／隔月刊イー・コンテクチャー／隔月刊地球温暖化／産廃NEXT)

(5) 後援 環境省、国土交通省、農林水産省、経済産業省、文部科学省、東京都、日本商工会議所、東京商工会議所、一般社団法人廃棄物資源循環学会、在日ドイツ商工会議所、KOTRA (大韓貿易投資振興公社)、TAITRA (台湾貿易センター)

(6) 会期 2017年5月23日(火)～26日(金)4日間

(7) 時間 午前10時～午後5時(最終日は午後4時まで)

(8) 会場 東京ビッグサイト 東展示棟、屋外会場(東京都江東区有明3-10-1)

(9) 展示規模 国内外の企業・自治体・大学など515団体

(10) 来場者数 158,197名(4日間累計)

(11) 出展対象分野 (ア) 再資源化・廃棄物処理・解体

(イ) 環境インフラ・国土強靱化・防災減災

(ウ) 水処理・水質浄化

(エ) 土壌・大気・環境改善

(オ) バイオプラスチック・包装・エコ製品

(カ) バイオマス・有機性廃棄物処理

(キ) 関係団体・学術機関

(ク) 環境ソフト・スケール・測定・分析・環境ソリューション

(ケ) 収集・運搬・搬送・保管・物流

(コ) サーマル

(ク) 自治体

2 視察研修の様子

(1) バイオマス^{※1}・有機性廃棄物処理エリア

(1 階東 4 ホール)

コンポストなどの生ごみ分解機器、バイオマスプラント^{※2}の紹介、食品廃棄物の粉碎機や脱水機などの展示

(先進事例)

土中埋込とすることで分解速度を早め、臭い対策もできるコンポストや、省スペース生ごみ処理機などを視察



(土中埋込型コンポスト展示を見学する委員)



(もみ殻を利用した燃料製造・熱利用システム)

(2) 新エネ・再エネ推進エリア (1 階東 4 ホール)

熱利用や太陽光、バイオマス^{※1}など発電設備の展示

(研究事例)

バイオマスとして焼却残渣に課題のあったもみ殻の活用を試みた研究事例などを視察

(3) 収集・運搬・搬送・保管・物流エリア

(1 階東 4 ホール)

収集運搬車両やパッカー車をはじめ、ごみ搬送カートなどを展示

(先進事例)

積載量の改良や積載モード切替機能付きの収集運搬車両や新型計量装置付きプレス式ゴミ収集車などを視察



(収集運搬車両を見学する委員)



(解体用圧砕機の展示)

(4) 再資源化・廃棄物処理・解体エリア

(1 階東 1~3 ホール)

破碎機や切断機、ベルトコンベア、建設機械のアタッチメント、廃プラスチック燃料化システムなどの展示

(先進事例)

大型重機や、様々な資源の選別・破碎機・分離機などを視察

(5) 自治体エリア (1 階東 5 ホール)

鳥取県内の環境・リサイクル関連企業 7 社が独自の技術・製品・特許を PR

(先進事例)

身近にある沢や堰から取水して高低差を利用して発電するマイクロ水力発電システムや自走式竹破碎機などを視察



(鳥取県産業振興機構ブースの様子)

※1 再生可能な生物由来の有機性資源で、化石資源を除いたもの。

※2 バイオマスから燃料などを作り、そのまま電気や熱に変えることができる施設。

Ⅲ 委員の感想等

1 視察を終えて

- ・ 生ごみの減量化や、資源の循環などが叫ばれる中、様々な技術が市政の参考になるのではないかと感じた。
- ・ 小水力発電など地域の河川を活用した発電の可能性を感じた。
- ・ 県や市町村にとって、環境ビジネスが地域の産業振興に繋がるものと強く感じた。
- ・ 学校や介護施設などの事業者を対象としたコンポストなどは、本市の政策にも加える研究をしてもよいのではと実感した。
- ・ 今後さらに地域や人々の実生活を市政に活かしていくことが必要という認識を新たに持つ機会となった。
- ・ 市の推進するコンポストなどを実践してきたが、実践の難しさを感じていたところである。今回、土中埋込式コンポストを目的に視察をし、安価に導入が可能で、家庭でも取り組みやすいと感じた。

2 その他

- ・ 今回、様々な環境対策に関する技術・サービスを展示する環境展を視察し、特に、学校や介護施設などの事業者を対象としたコンポストなどは、本市も導入に向けた準備を進めてもよいのではと実感した。また、環境関連の事業は地球環境の保護のみならず、再資源化や発電による産業振興にも繋がり、今後さらに地域や人々の実生活に活かしていくことが必要と思われます。